

第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず「企画シート作成上の注意」をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フクオカダイガク	ケイザイガクブ	アビルマサヒロゼミ
福岡大学	経済学部	阿比留正弘ゼミ

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
トモタスプロジェクト	ナガサトマドカ	3
ともたすプロジェクト	永里円香	

研究テーマ（発表タイトル）

災害から命を落とす人をゼロにするため、行動に結びつく仕組み

1. 研究概要（目的・狙いなど）

現在、毎年のように大きな自然災害が起こっており、たくさんの失われるはずのなかった命が失われています。私たちは命を落とす人を少なくするような仕組みを作りたいと思い、このプロジェクトを発足しました。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

地球温暖化により、現在日本では大雨が増え、毎年のように水害が起こっている。多くの命が犠牲になる前に安全な所へ避難するという意味で「自分の命は自分で守る行動をしてください」とテレビなどでよく言われています。この自分の命を守るために必要な情報が少なく、結局、逃げ遅れて犠牲になった方が多い。

3. 研究テーマの課題

災害時、テレビからとれる情報は、避難に結びつかない。避難に結びつく情報を提供するべきであるが、情報を扱えない、受け取れない人もいる。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

インターン先としている光陽無線株式会社の、「防災クラウドサービス」を使い、2つの仕組みを作る。

1つめは、全国に防災クラウドサービスというものを普及させ、どこに災害弱者がいるのかということ載せ、ある地区の区長のようなリーダーがこの防災クラウドサービスを見て、災害弱者を助け、地域全体で避難できるような仕組み。

2つ目は、情報弱者に対して、情報を見なくても、目や耳で見たらすぐわかるような警報ランプのようなものを家に置き、すぐに逃げれるような仕組み。この警報ランプは防災クラウドサービスにデッドラインを設け、これを越したら危ないというサインにする。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

・避難しなかった人に対する、災害の際の情報手段のアンケートを実施した。すると、77%の人にテレビと回答していただいた。

- ・テレビ局は災害の際、どのようなことを伝えているのかを九州朝日放送の太田アナウンサーにヒアリングを実施した。そして、集団に向けて情報を発信しているということが分かった。
- ・気象情報を出している福岡気象台の平山様へヒアリングを実施した。そして、気象情報というのは、気象を伝えるための情報だから、直接避難に結びつく情報ではないと教えていただいた。
- ・避難情報を出している市町村へヒアリングを実施し、避難指示や避難勧告を出しているにもかかわらず避難に繋がっていないということを教えていただいた。
- ・九州大学の三谷教授へヒアリングを実施すると、テレビの情報と避難に必要な情報というのは違うと教えていただいた。
- ・避難した人に対する、避難するきっかけとなった情報はなにかというアンケートを実施した。すると、69%の方が周りの危険だということを答えていただいた。
- ・気象台の平山様に避難に必要な情報はという質問をしたところ、個人に対しての避難に直接結びつく情報が必要だと教えていただいた。
- ・福岡市役所へ避難に直接結びつく情報はなにかというヒアリングを実施した。
- ・九州地方整備局筑後川河川事務所と福岡県庁になぜ、国と県はバラバラに情報を出しているのかというヒアリングを実施した。すると、避難の目的ではなく河川の管理のためにしていると教えていただいた。
- ・川の水位を見たことがあるかというアンケートを実施した。すると、たったの1%の人しか見たことがないということが分かった。
- ・
- ・九州北部豪雨の被災地である東峰村の澁谷村長に、高齢者が避難する際に必要なことを教えていただいた。

6. 結果や今後の取り組み

- ・住民がどのラインで逃げたら安全に避難できるのかということを、専門家にヒアリング
- ・災害時、住民の声かけをしていて、避難に結びついている自治区にヒアリング。
- ・インターン先である光陽無線株式会社に提案・協議
- ・情報サイトが使われるために、ユーザーの数を増やすためのやり方を企業に聞く。

7. 参考文献

- ・『台風19号、犠牲の3割「車中死」 垂直避難を推奨』日本経済新聞
2019年10月23日 日本経済新聞社電子版
- ・『大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化』国土交通省 気象庁
https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/extreme/extreme_p.html
- ・『自治体のホームページが…』NHK おはよう日本 サイト 2019年11月6日
<https://www.nhk.or.jp/ohayou/digest/2019/11/1106.html>
- ・『台風19号、犠牲の3割「車中死」 垂直避難を推奨』日本経済新聞
2019年10月23日 日本経済新聞社電子版
- ・『西日本豪雨、避難率は4%台 死者不明者出た3県17市町』西日本新聞 2019年9月5日 日本経済新聞社電子版 <https://www.nishinippon.co.jp/item/o/447193/>
- ・『我が国の水害リスクの現状』国土交通省
https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kasen/gaiyou/panf/pdf/c1.pdf
- ・『情報通信白書』総務省 <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/html/nd142110.html>
- ・『「的確な住民避難のための情報」に関する住民アンケート分析』福岡県立大学 学人間社会学部平成29年度 社会調査実習 東峰村調査チーム
<http://www.fukuoka-pu.ac.jp/academics/human/sociology/img/0a2d3d956518b658dbf2e426d8fccfb2.pdf>

●パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

●発表時に使用する成果物（例、商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート）

【企画シート作成上の注意】 ※「第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、翌年 3 月に公開予定の「日経ビジネス電子版」にリンクされた特設サイトに掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただく場合がございます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

↑ここまでを 4 ページ以内に収めて、提出してください↑